

(様式1)

### 令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	地域とともに、個々の思いや願いの実現をめざし、自立と社会参加のための力を育む			学校整理番号	特20	
(2) 現状と課題	小学部32名、中学部23名、高等部33名、計88名が在籍し、そのうち11名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は27学級であるが、指導学級として編制している19学級のうち13学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 また、むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校や保育所等、市町村教育委員会への支援のほか、放課後等デイサービス事業所や移行支援に関する施設、事業所等との連携について、更なる充実が求められている。			学校名	青森県立むつ養護学校	
(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開			対象障害種別	視覚・聴覚・知的・ <del>肢体</del> ・病弱	
	2 キャリア発達を促す指導の充実			自己評価実施日	令和 6年12月16日(月)	
	3 保護者や地域と連携・協働した活動の推進			学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 3日(月)	
(4) 結果の公表	・令和7年1月31日(金)、2月5日(水)、7日(金)に開催した学部ごとの参観日において、学校評価の結果の説明を行った。 ・令和7年2月3日(月)に開催した学校運営協議会において、教職員による自己評価や保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・令和6年度学校評価結果報告書を学校ホームページにて公開する。			(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 学校運営協議会委員8名 ※2名欠席 (教育活動協力者3名、地域住民2名、保護者2名、学校長1名)		
自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①目指す資質・能力を明確にした教育活動の実施 ②個別最適な学びと協働的な学びの実施 ③ICTを活用した指導の展開	・年間計画や授業等において、育成を目指す資質・能力を意識して学習目標を立てたり評価を行ったりした。 ・校内研修では、的確な実態把握と指導の実現を目指して研究授業を行った。また、話し合い活動等児童生徒同士が関わる場面を設定し、コミュニケーション能力の育成を図ったところ、児童生徒が主体的に取り組む様子が見られた。 ・ICT活用については、先進校の視察を行うい、児童生徒の実態やねらい等に合わせた活用をするなど、工夫した実践が見られた。	B	・教職員は一人一人の児童生徒の実態を把握し、声をかけるべき時と見守る時をしっかりと把握して指導に当たっている。様々な意見があると思うが、しっかりと対応している。 ・先進校の視察などはとても良い取り組みである。他の学校を見ることは大切なことである。 ・教職員の定数よりも、配置が6人少なくスタートしているというの理解できない。	・児童生徒一人一人のニーズに応じた指導のため、教科横断的な視点や、児童生徒同士が対話的に関わる場面設定、児童生徒が自ら課題を見つけ課題解決に向かう場面などを意識した授業づくりが必要である。 ・ICT機器の活用については、ICTのもつ特性を有効に活用できるような授業展開につなげる。 ・上記のとおり、課題を踏まえて次年度も継続して取り組む。

2	キャリア発達を促す指導の充実	<p>①児童生徒の自己実現（自分の役割、自分らしさ）をめざした指導の展開</p> <p>②児童生徒の自立と社会参加をめざした指導の展開</p> <p>③児童生徒の学部間交流（新規）</p>	<p>・児童生徒の役割を意識した授業や活動を設定するとともに、称賛や次への期待を込めるような振り返りを大事にした実践が見られた。</p> <p>・児童生徒の年齢や発達段階、実態に応じて、役割への意識や自己の課題への気づき等、様々な活動場面で自立と社会参加につながる取組が見られた。</p> <p>・学部を超えた学級間での交流や中学部、高等部の作業学習における交流などが行われ、他学部への理解や目指すべき姿への理解が進んだ。</p>	B	<p>・学部間交流はとても良い取り組みである。</p> <p>・児童生徒が一人一人自立に向けて頑張っているが、地域社会が、生徒ができる仕事を提示するなどの取組が必要である。そのため学校運営委員が情報を発信していく必要がある。</p>	<p>・児童生徒の生活年齢を踏まえた授業展開をし、児童生徒が達成感や自己有用感を得られるよう工夫を図る。</p> <p>・校内にとどまらず、家庭や地域で生かすことができるよう、活動内容や場面の工夫を図る。</p> <p>・小中高一貫したキャリア教育のためにも学部間交流のあり方を今後も検討していく。</p> <p>・上記のとおり、課題を踏まえて次年度も継続して取り組む。</p>
3	保護者や地域と連携・協働した活動の推進	<p>①保護者との連携及び保護者・地域への積極的な情報発信</p> <p>②地域の人材や社会資源を活用した協働活動の実施（コミュニティ・スクール）</p> <p>③交流及び共同学習の計画的・組織的な実施</p>	<p>・連絡帳や学級通信、学校だより、ホームページ等により、保護者や地域への情報発信を積極的に行った。ホームページ閲覧者数が500万件を超えた。</p> <p>・各学部とも外部講師を計画的に招いて、外部講師と触れ合ったり学んだりする機会を設けたことで、児童生徒が意欲的に活動に取り組む姿が見られ、その後の校内での指導にも生かされた。また、学校運営協議会委員の方に学校行事（高等部グラウンドゴルフ大会）に参加していただくことができた。</p> <p>・交流籍制度による居住地校交流では、地教委、当該校と連携しながら実施することができた。また、四校園スポーツ交流会や三校交流会、ものづくり交流、エールボール活動など、関係者と連携して計画的に実施することができた。</p>	A	<p>・学校を取り巻く環境の変化（スクールバス導入、増築工事、近隣小中学校の統合等）を感じる。学校の問題だけでなく、行政や地域の問題でもあるので、委員としても情報発信をしていかなければならない。</p> <p>・地域の町内会、婦人会として今後も子どもたちとのかかわりの幅を広げる役割を担っていきたい。</p> <p>・学校と地域とをつなげるのが「学校運営協議会」である。学校の声を地域へ届けていかなければならない。</p>	<p>・外部講師の活用や地域での行事展開、地域の催しへの参加などを今後も継続し、地域への啓発に努める。</p> <p>・居住地校交流や学校間交流は今年度同様に継続実施する。</p> <p>・教育活動の様子は本校ホームページや学校通信により情報発信する。</p> <p>・上記のとおり、課題を踏まえ、学校運営協議会の力も借りながら次年度も継続して取り組む。</p>
(11) 総括	<p>保護者の学校評価評価点平均が3.5(評価点4が「よく当てはまる」、1が「全く当てはまらない」の4段階で評価)以上であることから、今年度の教育活動についておおむね良好な評価をいただいております、引き続き教育活動を充実させていく必要があります。</p> <p>保護者アンケートにおいて、児童生徒への指導や学習活動についての評価が昨年度と同程度であった。また、各項目で「わからない」と回答した方が昨年度と比較して減った。児童生徒への支援や指導方法等について引き続き見直し改善を図るとともに、様々な機会を捉えて学習の様子や成果を関係者で共有し、積極的に外部へ発信していく。</p> <p>教職員がより充実した指導ができるよう、教職員の働き方改革の観点から、各学部の行事等の見直しや各分掌等における業務内容の整理を進め、教職員の業務改善に努めていく必要がある。</p>					